



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 156 Jan. 1, 2019

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCBビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



伊藤瀬戸市長の植樹

地元小学生の植樹



森の音楽祭での記念植樹祭 本文P4参照

目次

○年頭のご挨拶	高橋玲司	2	○支部友コーナー	金谷正起	11
○第10回猿投の森の音楽祭2018 を振り返って	毛利邦男	3	○同好会コーナー スケッチクラブ	村中征也	12
○御在所フェスティバル2018	丹羽大樹	4	古道塩の道	山中光子	
○登山学校活動報告	榊 将美	5	こまくさの会	松本陽子	
○ボランティア委員会2018年 を振り返って	前田隆久	6	○委員会報告		
○東海支部の蔵書からの一冊⑧	石田文男	8	東海Youth/青年部		14
○東海支部俳壇		10	○追悼 布目治二さん	西山秀夫	15
			○会務報告	毛利邦男	17
			○ルーム日誌・会員異動	毛利邦男	19
			○INFORMATION		21
			○編集後記	星 一男	

年 頭 の ご 挨拶

支 部 長 高橋 玲司

新年あけましておめでとうございます。
日本山岳会東海支部も本年、設立59年目を
迎え、支部として掲げた『トリプルワン』（安
全第一・一体感を持つ・NO.1を目指す）を
スローガンに今年も取り組んでいきます。

さて、昨年的一年間を振り返りますと、明
るい話題は実年登山を实践するインドヒマラ
ヤ隊の未踏峰6060mタシ・ラン峰の全員登頂
です。実年隊にふさわしく、若かりし頃の実
力を如何なく発揮され、素晴らしい登山の成
果として今回も初登頂を勝ち取りました。こ
の未踏峰は無名峰でした。無名峰には初登攀
をしたものに命名権があります。我が登山隊
は、現地のラホール語で「幸せの山」を指す
「タシ・ラン」と命名したとのことです。

2年目を迎えました登山学校においても、
継続募集のみで66名の参加をいただき、新
しい多くの仲間を迎え入れる事が出来ました。
学校の目的は、自分たちで行ける能力を育成
するとともにツアーでもないガイドでもない、
仲間とコミュニティを作り、山岳会の楽しさ
を感じていただく事であり、また、将来の山
岳会員へなっていただけの方々へのアプロ
ーチとしては大変素晴らしい取り組みだと思
います。

一方で講師の負担増も意見として出ており、
今後若手講師の育成と、講師間のスキルア
ップの向上の研修や事故への対応、連絡体制
の整備など、改めて支部としても取り組まな
ければいけない課題も多いと感じられました。

10回を迎えた森の音楽祭も、森のオーケ
ストラが大盛況に終わりました。一般市民の
多くの参加があり東海学園高校との連携も深
まり、若手と連携した事業運営は他委員会の
模範となります。

また、高齢化が進む猿投の森づくりの会な
どから準備等の負担が重いとの意見もあり、
一体感を持って全支部員で取り組まなければ
と思います。この森の音楽、森の中という全
国でも例を見ない野外コンサートということで、
内外から高い評価を得ています。10回
目という節目を超えて、尚一層レベルの高い

音楽祭を目指
していきたく
と考えていま
す。

東海支部の
各委員会の活
動も活発に行
われています。
本年度から委
員会のグルー
プ分けをさせ
ていただきました。まだ模索中ではありますが、全国一平均年齢の若い支部、全国一の会員数を誇る支部として、年齢にとらわれることなく支部員一体となれる活性化を一層図りたいと思います。

東海支部が抱える支部員、支部友、森づく
りの会員などを含めると500名を超す支部の
組織の大きさ故のフットワークの課題は、東
海支部の各委員会の委員長さんから委員のメ
ンバーへのフォローでカバーしています。支
部活動は、支部員の委員会加入が支部活動
を楽しくしていく原点です。是非、全支部員
が何らかの形で各委員会との係わり合いを持
っていただくようお願いいたします。

また今年は60周年記念事業に向けた取組
みをスタートさせていきます。皆さんの英知
とパワーで意義ある記念事業をご提案いた
だきたいと思います。

最後になりましたが、近年社会通念として
コンプライアンスの浸透が常識化しています。
このことは、登山界においては、安全登山に
最大限配慮する取り組みが、社会通念上の責
務として益々求められてきていることを意味
しています。今や計画書の作成提出は当たり
前となり、安全登山を遂行し指導して行く事
が山岳会の大きな責務となっていると感じ
ます。どうか皆さん、今年も安全には最大限
留意し、山を一杯登りましょう。

東海支部が益々発展する事を祈念申し上げ
まして、年頭のご挨拶に代えさせていただきます。



第10回森の音楽祭2018を振り返って

森の音楽祭実行委員会 毛利邦男

去る10月27日(土)に第10回森の音楽祭2018を開催した。台風によって被害のあった林道の整備、ハイキングの川歩きコース上の倒木の除去などの作業を含め会場整備などに大勢の支部員、支部友会員が参加して頂き、万全の事前準備作業を行った。この場をお借りして御礼申し上げる。

音楽祭開催2日前までの天気予報によると、音楽祭当日は午前中雨が残るとの事だったので、今年も雨天会場での開催になることが危ぶまれたが、前日の天気予報では当日は午前10時頃には雨が上がりとなった。この情報をもとに、音楽祭開始時間を1時間遅らせて猿投の森特設会場にて開催することを決断。関係者にその旨連絡すると同時に、HPでも広報をし、前日からの会場設営準備に取り掛かることとした。天気は予報通り9時頃には上がり、最近の天気予報の正確さに、改めてびっくりさせられる。

音楽祭は高橋支部長、および来賓の瀬戸市伊藤保徳市長、公社国土緑化推進機構前川常務理事の挨拶のあと、音楽ユニット「ゆらゆらミルフィーユ」による太鼓と篠笛の演奏で始まった。つづいて東海学園交響楽団によるブラームスの「交響曲第1番ハ短調作品68番」のすばらし演奏となった。演奏後の花束の贈呈が終わると、前田隆久支部員の歌唱指導の下参加者全員で「雪山讃歌」を歌い上げ第1部を終了した。

第2部の森の体験プログラムは「第70回全国植樹祭あいち2019」の応援イベントとしての「記

念植樹」で始まった。伊藤瀬戸市長、前川国土緑化推進機構常務理事、地元代表者、地元



東海学園交響楽団

小学生、主催者代表者に加え一般参加者の希望者が花粉の少ない「あいちニコ杉」と広葉樹の

記念植樹をおこなった。記念植樹の後、約80名が8つのコースに分かれて森の観察会に参加、猿投山の山頂を目指したハイキングには5つのコースに分かれ37名が参加し、森と山の恵みに感謝しながら午後4時ごろまで参加者全員に楽しんでいただいた。



ゆらゆらミルフィーユの演奏

後日談であるが、今回初めて音楽祭に参加された前川理事から「森とオーケストラという素晴らしいコントラストに甚く感銘を受けた」との嬉しいコメントをいただいた由である。

併せて来年は、今度の人事で新たに就任された沖専務理事(前林野庁長官)と同道したいとも話されたという。森づくりの最大スポンサーである国土緑化推進機構からのこうした高い評価は、新たな11回を迎える来年の音楽祭に大きな弾みをつけるものといえよう。



記念植樹

御在所フェスティバル(GOZA FES) 2018

東海学生山岳連盟委員長 丹羽 大樹

今年も皆様からの温かいご支援をいただき、日本山岳会東海支部 東海学生山岳連盟主催で9月22・23日に御在所岳藤内小屋をベースに御在所フェスティバル(GOZA FES)を開催致しました。東海学生山岳連盟は2009年11月に再発足した東海地区の登山を行っている大学のクラブで運営されている団体です。例年私たち主催で開催させていただいているGOZA FESSは、全国の山好きな大学生が御在所岳に一同に会し、親睦を深めるというイベントです。今年で9回目を迎えて、毎年様々な地域の大学生が集い、山登りやクライミング、夜の盛大な懇親会を通して、楽しく交流を深めております。

本年度は遠方からの参加者として、関東の三大学からの学生を迎えて開かれました。当日朝まで降り続いた雨のため鈴鹿スカイラインが閉鎖されており、一時はどうなるかと思いましたが、なんとか1時間遅れでスタートできました。初日は、日本山岳ガイド協会から派遣していただきました奥村晃史ガイドに指導、監督を受けまして、藤内壁での体験クライミングを行いました。東海地区の学生も関東からの学生も普段岩に触れることのない学生が多く、ロープの結びや使い慣れない道具たちに苦戦しながらも岩登りを楽しんでいる様子でした。このような機会がより深い山との関わりあいを築くきっかけになれば嬉しい限りです。夕方からは恒例の懇親会を開きました。多少のお酒も入りアイスブレイクしたところで、互いの山登りや、山に懸ける想いを語り合い、新たな仲間との親交を深めました。

2日目は国見尾根・中道・本谷・前尾根・中尾根に分かれて全員で山頂を目指しました。私自身は前尾根経由で山頂を目指しましたが、私以外の学生はクライミングを始めたい、始めたばかりという学生で、楽しさが弾けんばかりの表情で上がってくる彼らと今後も登りたい、そんな思いにさせられました。山上公園に一足早く着いたハイキングの隊も和気あいあいとしており、各隊で新たなつながりができたものと思います。

趣味嗜好は違えども、それぞれのスタイルで同じ山頂を目指せる御在所の地で、今後とも裾野を広くもち様々な背景を持つ学生どうしの交流が続けられればそれは素晴らしいことだと思います。

このような素敵なイベントが毎年会場と楽しいお話を提供いただいております藤内小屋の方々、高橋支部長をはじめとした日本山岳会東海支部の方々、丁寧にご指導いただいた奥村ガイド、そして遠方よりはるばる来てもらいました関東の学生の方々によって開催することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

参加大学名：大同大学、名古屋大学、名古屋工業大学、南山大学、岐阜大学、三重大学、東京海洋大学、立正大学、東京医科歯科大学



御在所岳山頂にて



藤内壁（一の壁）でのクライミング体験

登山学校活動報告

登山学校運営委員会委員長 榊 将美

登山学校では「自立した登山者」の育成を目的とした実践講習と理論の総合的なカリキュラムを組んでいる。第2四半期は机上講習の強化を図っており以下に状況を報告する。

1. 「地形図とコンパスの活用」

講師：鈴木慎吾委員

10月6日(土) 午前10時～午後12時

於：支部ルーム

昨年に続き2回目の講習でパソコンを使用した地形図の作成講習を実施した。

①登山で使用する地形図 ②電子地図の活用(フリーソフトを利用して) ③地形図を読むための基礎知識、が講義され希望者にはソフトが提供された。今や電子地図の活用は必須であり有意義な講習であった。

2. 「冬山装備について」

講師：栗木洋明委員

11月10日(土) 午前10時～午後12時

於：支部ルーム

中級教室を対象とした冬山装備についての講習。現物を展示、手に取り、質疑応答形式で安全登山に資する具体的な装備と使用方法について詳細説明があった。

特にコストパフォーマンスのある装備手配方法には参加者の共感が大きかった。今後は登山学校全体に「冬山装備」講義を広げる予定である。



講演する栗木洋明委員

3. 「危険認識とリスクマネジメント」

講師：カナダ山岳協会認定ガイド

(日本山岳会東海支部員)山田利行さん

11月12日(月) 午後7時～午後8時30分

於：支部ルーム

登山学校でも重要なテーマであるリスクマネジメントを題材とした講演をいただいた。

「自立した登山者」とは、①自分が行う登山に対して安全に活動できる人 ②安全は経験と技術だけではない ③状況を的確に判断し、行動できること ④自分だけでなく他者の安全を考えられること。と定義しカナダ山岳会のIS031000(2009年)に基づき説明がなされた。

【危険とリスクの定義】として「危険(リスクの根源)」とはそこに存在するもの。「リスク(不確かさ)」とは危険にさらされた時に発生する結果であり自分で取るもの。したがって危険は減らすことができないが、自分の対応によってリスクは低減できるとされた。また、行動を起こせば何らかのリスクが発生する。リスクの大小は行動の目的・目標によっても異なるとの説明があった。

その後「登山リスクマネジメント」をフローチャートで説明された。参加者に問題提起をされ参加者が答える形式で講演は進んだ。まとめとして、①危険を認識し、許容可能なリスクを見極め、的確なリスクマネジメントをしよう ②危険とリスクは常に変化する、状況に応じて対応しよう ③技術・知識・体力をつけリスクを下げる努力をしよう。と提案された。今後とも受講生に各種講座の案内を積極的に行い安心・安全登山に寄与していきたい。



講演する山田利行さん

2018年を振り返って

年間通して4つの事業

ボランティア委員会委員長 前田隆久

新年あけまして、おめでとうございます。

2018年、ボランティア委員会は新しい事業に挑戦した。それは、春と秋に行った「身柄付き補導委託登山」である。名古屋家庭裁判所の委託により、試験観察中の少年たちに一泊二日で登山体験をさせ、登山を通して、「少しでもいいから立ち直るきっかけをつかんで欲しい」という思いから踏み切った事業だ。

少年たちは登山で徐々に心を開き、最後には、普通のどこにでもいる少年の顔を見せる。山から、自然から、ささやかでもいい、前向きに何かをつかんでくれればと願いたくなる。詳細は、支部報18年7月号に、第一回「身柄付き補導委託登山」について詳しくレポートしているのでご覧いただきたい。

この委託登山事業を加えて、一年を通しての視覚障がい者支援登山、春の知的障がい者支援登山、秋の幼稚園児支援登山、春、秋の試験観察中の少年支援登山と年間4つの支援事業が揃った。

時々、周囲から「大変だねえ」というねぎらいの言葉を耳にする。確かに、支援対象者に合わせた山の選定に始まって、支援者を集め、支援対象団体と協議して、登山計画を作成するまでは大変だ。だが、登山が始まってしまえば大変だと思った事はなく、誰かの力になり、一緒になって頂上を踏む達成感は、何度か登った山でも、低山でも関係なく、いつも楽しい充実した山行になる。彼らから気づかされる事も多い。山に対する考え方が変わる。

以前、ブラインド登山に参加してもらった東海学生連盟の学生は、「いつもは、ひたすら山を登るだけですが、今回のように、ゆっくりと花を見て、新緑を感じて、確認しながら登る山も楽しかった」と感想を述べてくれた。下山した時、決して、その言葉を期待している訳ではないのだが、参加者全員から自然に出る「ありがとう」が心地よい。この秋も、たくさんの方の応援を得て、たくさん笑顔と、ありがとうの言葉とともに全ての行事が終了した。いづれも、安全に終わった事

を、ご協力いただいた皆さんに心より感謝したい。



山岳会と一緒に登山



ブラインド登山

以下、支部報10月号以降に行われた、秋の行事の、日程と行事名、対象の山、参加人員を紹介する。①10月6日(土)、東海支部員視覚障がい者対象「ひまわり登山」、母袋烏帽子岳、雨天中止。②10月20日(土)、幼稚園児対象「親と子の登山教室Ⅰ」、鈴鹿・尾高山、128名参加。③10月28日(日)、知的障がい者対象「山岳会と一緒に登山」、三河・寧比曾岳、35名参加。④11月1日(木)・2日(金)、試験観察中の少年対象「タンポポ登山」、鈴鹿・水晶岳、ハト峰、12名参加。⑤11月3日(祝)、視覚障がい者対象「秋のブラインド登山」、近江・小谷山、28名参加。⑥11月10日(土)、幼稚園児対象「親と子の登山教室Ⅱ」、鈴鹿・尾高山、78名参加。⑦11月17日(土)、ボランティア委員会、支援者、障がい者、関係団体

対象「秋の親睦山行」、八風越え・三池岳、16名参加。①以外は、いずれも天気恵まれ実施できた。

さて、来年に向けボランティア委員会2019年の課題は、支援者の新規開拓だ。現在、支援者登録リストと委員会を合わせ70名近い方にメールで行事のご案内をしている。今年も、東海支部のHPを見て、東海支部員以外からの参加もあったが、今後も、支部員、支部員以外に関わらず、出来るだけたくさんの方に、これらの登山の体験をして欲しいと思っている。必ずや、新しい感動と、新しい発見があり、登山に対する考え方が広がる。

日本の、国土に占める森林面積は68.5%で、

先進国第3位。この恵まれた自然環境から得られる、物心ともに多岐に渡る恩恵を、障がいのある人も、無い人も、若い人も、若きも、少しでも多くの人に享受して欲しい。ボランティア委員会と支援者のみんなはそんな思いで、一緒に山を楽しんでいる。

この支部報を見て、一度参加してみたいと思われた方、是非ボランティア委員会 (maedaiq@gmail.com) までご連絡いただきたい。メールアドレスだけでもご連絡いただければ、行事案内をお送りさせていただく。都合の付く時だけでも結構である。気軽にご参加いただきたい。待っています。

東海学生山岳連盟所属学生への装備寄贈依頼について

東海学生山岳連盟も再設立から8年を迎え、順調に活動を行える様になりました。これもひとえに皆様のご尽力の賜物であると感謝申し上げます。

さて、昨今の経済事情や、教育資金の高額化などを考えると、登山を志す学生にとって装備費用の登山に占める負担割合が大きくなり、結果として登山のスケールを縮小せざるを得ない状況であります。

東海学生山岳連盟は、再設立時の主旨として、東海支部団体加盟の傘下の組織として、東海支部の設立時から培われる将来のヒマラヤニストを目指すべく、高度な山岳登山の実践教育はもとより、将来の東海支部員の育成を目的としております。

意思があっても育成できない状況を鑑み、本主旨をご理解いただける皆様で、『使わなくなったまだ使える装備等』を寄贈いただくようお願い申し上げます。

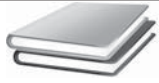
以上ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

寄贈方法：使える装備については何でも構いません。東海支部ルーム内に寄贈用の箱を用意いたします。

配布方法：東海学生山岳連盟の総会時など、多くの人が集まるときに、本人の志す山登りに対する装備を優先に、支部長が公平性を持って配布いたします。

注 意：使用可能なものに限定ください。特に安全を期する装備に関しては、使用可否を判断の上寄贈ください。尚万が一瑕疵がみられる装備には、処分させていただく事もあります。

問い合わせ：東海支部長 高橋玲司 090-8953-4177 reijitaka176@ybb.ne.jp



東海支部の蔵書からの一冊⑱

図書委員会 飯島実千代

東海支部の蔵書のなかで『日本風景論』というとても古い本を手に入れました。この本に関して何の予備知識もありませんでした。箱の中に入っていて、糸で綴じてある本書(明治27年初版)と、副本が入っていました。本書は古い文体で書かれていて恥ずかしながら私には難しくて殆ど読めません。副本は本書の訳文かと思いきやそうではなく、志賀富士夫、山崎安治、猪瀬直樹による『日本風景論解題』という作者志賀重昂に関する評論でした。

本書は、美しい挿絵が多く有り、聞き覚えのある山名や地名が大きな文字で書かれているので、難解な個所は想像して読んでいきました。挿絵は、雪湖樋畑と海老名明四によって描かれています。本の内容は(一)諸論、(二)日本には気候、海流の多変多様なる事、(三)日本には水蒸気の多量なること、(四)日本には火山岩の多々なる事、(五)日本には流水の浸食激烈なる事、◎登山の気風を興作すべしの五項目からなっています。

(一) 諸論の中には日本の風景美の基準を「瀟洒・美・跌宕」に置きそれぞれ範例をあげており、地理学(自然科学)と文学と名所図会が合体したような本です。ところがこの本や作者を調べていくうちに単に地学的な解説や、日本の風景を紹介したり登山を奨励したりという内容だけでなく別の面を持っていることが判ってきました。

作者志賀重昂の経歴

文久3年：岡崎市康生町に岡崎藩士の長男として生まれる

明治7年：上京

明治13年：札幌農学校入学(17歳) 上級生に内村鑑三 新渡戸稲造がいた

明治17年：札幌農学校卒業

明治17年：長野県中学校教諭として長野へ赴く

明治18年：酒席で長野県令と喧嘩し退職

明治19年2月～11月：軍艦「筑波」に同乗し南洋を周る

明治20年：「南洋時事」出版

明治27年：「日本風景論」初版



この本が初めて出版された明治27年は日清戦争勃発の年です。アジアでは欧州の帝国主義が台頭し侵略を進めていました。そういう状況下で日本の良さを見直し、故郷に対するノスタルジーを喚起させ、それを強く印象付けることで愛国心を養う。と言うナショナリズムの役割を担ったのです。故に「日本風景論」志賀重昂と言えば国粋主義の典型になったのです。けれども120年を経て本書を見ても私は特に愛国心を喚起されることはなく、興味は本書(五)項◎登山の気風を興作すべしで、この本を見て当時の多くの青年が近代登山に目覚めたということです。

日本山岳会創立者の一人である小島烏水の「なぜ、私が槍ヶ岳に登ったかと言えば、それを書物の上で煽動教唆してくれた志賀先生に他ならなかった」。三代目会長小暮理太郎も「私がこの本から受けた刺激は頗る強いものであった」と言っています。ウォルター・ウエストーンが『日本アルプスの登山と探検』を発表したのは1896年、『日本風景論』の2年後なので当時の若者たちがいかに情報に飢えていて、この本に飛びついたかがうかがえます。

山へ行こうとすれば今でいう口コミが主な情報源だった時代、本書には日本の多くの山

の登山情報が書かれています。例えば立山「立山の絶頂に登らんとせば二径あり、(一)信州口(二)越中口是成り。(一)信州口 信濃大町より野口村に到り、此処にて案内を雇い且つ各種の準備をなし、針ノ木嶺(海拔2593m)を越え、二股、黒部を経、ザラ越(海拔2,598m)をこえ・・・」御嶽「中山道福島町若しくは上松駅より登るを最便とす、福島町より登れば一日にして上下し得」等。また、登山の準備という項目では「衣として、フランネル(ネル、毛織物)は最適だがリネン(亜麻)は汗をかき、寒冷な空気に合えば、風邪をひくか熱病にかかる」としています。また「食では米や梅干しと共に(ペムミカン)なる牛肉を乾かし粉にして、胡麻や胡椒で味付けしたものを携帯せよ」としています。

更に、渡渉やピバークの方法も書かれています。けれど、志賀重昂と言う人は80キロの巨漢で山に登ったことはあまりないらしく、登山技術を身につけていたわけではない。本書に書かれている事は、例えばイギリスのガルトンの「旅行術」のような他書の引用だったようです。ともあれ、登山を志す若者にと

って暗闇を照らす光となったことでしょう。27年前までは鬘を結って刀を差した侍が闊歩していたのに、近代登山をする人が現れるなんてすさまじい変革だと思う。

志賀重昂は明治39年3月日本山岳会創立早々に特別会員として入会し、会員番号は37番。明治44年5月東京府教育会館で開かれた山岳会第4回大会において「予の見たる山岳」と題する講演をした。明治45年6月W・ウエストーンに次いで二人目の日本山岳会名誉会員になる

『日本風景論』はとても古い本で文章も難解ですが、一度手に取ってみて下さい。近代登山黎明期に目を輝かせてこの本を手にとった先人のエネルギーを感じるような気がします。因みに初版後、短い期間に表紙絵を変えながら15版を重ねている。

「日本風景論」

昭和54年1月31日発行

発行所 飯塚書房 219頁(別冊144頁)

・初版発行 明治27年10月/政教社

自然保護委員会よりお知らせ

委員長 井藤恵美子

自然保護委員会は、環境に関心をもっている会員が多く集まっています。いつまでもあると思うなこの地球。・・・少し大げさな言い方ではありますが、私たちが生きて存在するように、この地球も生きていて少しずつ変化しています。

この変化は、地球の大気の変化。毎年訪れる台風の規模の変化などに現れています。このような大規模での調査をすることはできませんが、当委員会では山岳会所有の山桜フィールドで動物調査を始めることになりました。

2019年度から2023年度の5年間は調査の期間です。5月から10月までの、5月、7月、9月を調査。6月、8月10月は赤外線カメラのメンテナンスのため家に持ち帰って風を通します。

環境省より貸与された赤外線カメラ3台をフィールドの動物がよく通りそうな場所に(いわゆる獣道)設置し、動物の種類、頻度を調べます。その記録を事務局担当者が、日本自然保護協会に決められた時期に提出します。日本全国で調査をしているので、全国の動物の様子が判明します。

当委員会では中心になって調査をする人を選出して、2019年度からの動物調査をやり遂げようと考えています。が、自然保護委員会も高齢化しています。この調査を終えるには委員が元気でヤマザクラフィールドまで調査に行けることが大事であり、若い方の協力を必要とします。環境に興味のある方、特に興味はない方、どなたでも構いません。この活動に参加してみようかなと思われた方、井藤までご連絡を御願います。

東海支部俳壇

山蕩児 心酔

小谷山に遊ぶ

小谷城もののふあわれ枯尾花

すすきの穂ゆらめくはざまに湖うみひかり

曲輪跡野分にまがふ武者の鬨

八方尾根は悪天

不帰かえらずの攀かぢし岩稜霧覆う

雷かみなり走り番つがい這松ついでついでばみぬ

茨川でキャンプ

仲間ともと飲やるキャンプファイヤー夜長ながかな

綾錦木もれ日の先藤原岳

奥山に鹿の高音のこだまして

親と添そいウリ坊木の実探しおり

木もれ日になほも色増す紅葉もみぢかな

流星の軌跡追おう目に君の笑顔えみ

三ツ瀬明神山

水澄むや無心に泳ぐ溪の魚

深山の尾にひそと咲く草の花
(ミヤマママコナ)

秋暑き山路胸突き八丁も

9月2日 乳岩峽と乳岩

秋冷や乳岩ちいわがらん伽藍の石仏

登頂の疲れを癒すぶどう食くぶ

愛しさにふと立ち止まる草の花

竜胆や花もつぼみも蔓つ二つ

秋山の彼方に光る三河湾

上田市真田町

真田家跡リンゴ畑の丘の上

柚べし売る真田三代歴史館

日本一孀恋村の秋キャベツ

千曲市 冠かむり着山へ登る

更級へ刈田の中を走りけり

山頂の句碑を撫でたり秋の風

どんぐりが落ちてにぎわふ山路みちかな

10月29日の通夜に参列

30年余の交誼を得し

布目治二さん逝く

秋の夜や遺影も山の姿なり

西山秀夫

支部俳壇の刷新について

編集委員 西山秀夫

支部俳壇を刷新しようという声があり、支部員から投句を募り、選句と観賞欄を設けてはどうかという提案がありました。新聞各紙が月曜日に掲載する俳壇の形です。選句とコメントは西山が担当。投句者は支部員と支部友。投句数は1人で3句をはがきに書き、支部宛てに投函してください。

写生を基本として有季定型で、支部報の紙面にふさわしく、山と自然を愛する心を575で表現してください。作品の現場を書き添えてもらおうと助かります。締切は支部報発行の1ヶ月前までを厳守。添削はしません。掲載できないことがあります。

私の俳歴は39歳で俳句結社「辛夷社」(本部：富山市)に入会して以来、30年。先達の名句約300句は記憶しているはずですが、したがって先人の句を模倣したり、もじったりしても分かります。本人にとって佳作だと思われても、どこかで見たなあという句は選びませんのでご了解ください。

作句の現場は山に限りません。自宅で山行の準備をする段階からでも句材はあります。句材はそこから中に転がっています。アイゼンやピッケル、スキー板はグレンデでなくても良いのです。但し、TVの映像や新聞の記事に題材を得て作ると空想句になります。なるだけ自分と現実とに即した句を希望します。季節別俳句歳時記を1冊は買ってざっと眺めておきましょう。季語は詩心を刺激するキーワードになります。楽しい読み物になるようにご協力ください。

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(平成31年3月～5月分)

3月9日(土) ☆

山域：野阪山地 山名：賤ヶ岳
リーダー：田中 進 締切：2月17日

3月10日(日) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：霊仙山
リーダー：今津英一朗 締切：2月18日

3月16日(土) ☆☆

山域：室尾山地 山名：大洞山・尼ヶ岳
リーダー：榎 将美 締切：2月24日

3月23日(土) ☆☆

山域：高見山地 山名：堀坂山・観音岳
リーダー：金谷正起 締切：3月3日

3月30日(土) ☆

山域：愛岐丘陵 山名：道樹山・弥勒山
リーダー：水野猛志 締切：3月10日

4月3日(水) ☆☆

山域：伊吹山地 山名：池田山
リーダー：榎 将美 締切：3月14日

4月6日(土) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：雲母・鎌ヶ岳
リーダー：磯部 隆 締切：3月17日

4月7日(日) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：藤原岳・孫田尾根
リーダー：今津英一朗 締切：3月18日

4月13日(土) ☆

山域：鈴鹿 山名：綿向山
リーダー：村瀬 恭平 締切：3月24日

4月18日(木) ☆

山域：瑞浪・恵那 山名：中山道(山菜取り)
リーダー：松本陽子 締切：3月28日

5月11日(土) ☆

山域：南信濃 山名：尾高山
リーダー：田中 進 締切：4月21日

5月12日(日) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：国見岳・ヤシオ尾根
リーダー：村瀬 恭平 締切：4月25日

5月15日(水) ☆☆

山域：奥三河
山名：鹿島山・大鈴山・平山明神山
リーダー：榎 将美 締切：4月25日

5月25日(土) ☆☆

山域：木曾山脈西部 山名：南木曾岳
リーダー：磯部 隆 締切：5月5日

5月26日(日) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：竜ヶ岳
リーダー：今津英一朗 締切：5月6日

支部友会員数

平成30年11月末 現在/114名

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。

・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)

・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。

・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

次回支部友ミーティング

開催内容のお知らせ

①第34回 平成31年2月12日(火)

19:00～21:00 支部ルーム

テーマ：「ナイロンザイル事件」

講師：尾上 昇氏 (東海支部友会委員長)

②第35回 平成31年4月9日(火)

19:00～21:00 支部ルーム

テーマ：「最新の登山用具について」

講師：千葉泰丈氏 (駅前アルプス社長)

リーダー連絡先

尾上 昇 FAX：052-832-3878

メール：onoe@onoe.co.jp

榎 将美 携帯：090-7237-4410

メール：m.sakaki@minds-consulting.jp

金谷正起 携帯：090-9931-3600

メール：kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

村瀬恭平 携帯：090-4186-9876

メール：hoshizakari@ezweb.ne.jp

田中 進 携帯：090-9191-8666

メール：t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津英一朗 携帯090-2616-7549

メール：imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯：090-9180-7245

メール：takass@yk.commufa.jp

松本陽子 携帯：090-7859-4031

メール：yo-kom@nifty.com

高松信治 携帯：090-3156-5268

メール：takama2nobu3@yk.commufa.jp

水野猛志 携帯：090-5866-3781

メール：r34668@bma.biglobe.ne.jp

同好会紹介コーナー

スケッチクラブ 白鳥庭園でスケッチ

村中征也

11月7日(水)快晴に恵まれ、「ご近所さま」の蟹井さんの案内で、庭園スケッチを楽しみました。

白鳥庭園は、熱田神宮西に広がる「池泉回遊式」の本格的日本庭園で、東海地区有数の規模。対象に事欠かず、思い思いの絵を楽しみました。来園の多くの方から声を掛けられ、スケッチ愛好家が多いことに、嬉しくなりました。



白鳥庭園 常夜灯前にて 全員で

白鳥貯木場を埋め立てて造られ、1989年の「世界デザイン博」の日本庭園として本格的に整備されました。東海地区の地形をモチーフに、御嶽山・木曾三川などがデザインされ、数寄屋造の「清羽亭」は、お茶会などに利用されています。

西隣には「国際会議場」や「センチュリーホール」があり、東隣の「白鳥古墳」は、「ヤマトタケル伝説」を偲ばせます。環境が素晴らしく、見どころ豊富ですので、四季折々の散策をお勧めします。

第5回作品展

2月15日(金)～20日(水)の5日間(18日は休館日)、名古屋市市政資料館・第5展示室(昨年と同じ)で、作品展を開催します。会員が、春夏秋冬に各地で描きためた作品を中心に展示(隣室で会員の個展も併設)します。東海支部の皆さんや知人に是非ご覧頂きたく、ご案内致します。

代 表…石田好子

事務局…村中征也・武内喜代子

古道塩の道同好会

山中光子

大きな目標であった飯田街道「吉良から辰野」までの、長い塩の道を歩き通した。

次の目標を会員の方々と話し合い、色々探索してみる。まずは手っ取り早く近くにと言う事で、伊那街道、美浜町の「食と健康の館」に出かけた。塩造りのイベント等を催していそうな建物もあり期待して出かけたが、以前はもっと資料が有り、充実していた所だったとの事。しかし、写真でしか見た事の無い「流下式枝条架塩田」のミニ版だが、現物を見ることができた。吉良では、「入浜式塩田」と言い塩田に砂と海水を撒き、手間を掛けて塩を作る。「流下式枝条架塩田」では竹の枝を組み、海水を上から掛け、太陽熱を利用してかん水を作り煮詰める。吉良でも昭和20年頃から流下式方式に変わり労力が減ったが、伊勢湾台風の被害により塩造りをあきらめなければならなくなった。



流下式枝条架塩田

美浜町「食と健康の館」にて

結局美浜町では満足できず、次はどこへと色々調べていたら土岐市等を通る塩の道中馬街道があったが、もう少し調査しないと旧道を見つげづらい。中津川あたりで旧道が見つげづらくなる心配がある。

静岡出身の人が距離はあるが、静岡の塩を運んだ道を調べようと言う意見で調査を始めた。静岡は塩の道の書物(塩の道ウオーキング 静岡新聞社出版)が発行されており、たまたま著者の方とお話する事ができ、色々お尋ねした。しかし、発行時よりかなりの年数が経ち今はまるっきり道が変わってしまっているため、書物の地図では崩れていたりして最終地まではたどり着けないかもと言われてしまった。取りあえず、塩の道の起点で立派な石碑が建っている牧之原市相良に出かける。高速を降り、車には



相良 塩の道起点

快適な道が続く。私達のように旧道歩きの目的で道を探す者にとっては大変な場所と実感する。まずは塩の道起点。コンクリート造りだが、道の四つ角に目立つように囲われて建っている。たまたま海岸迄歩き、地元のボランティアの方とお話しができ、田沼意次資料館の見学を進められた。資料館では「相良塩づくり物語」の冊子を頂いた。それは辰野町で悩んだ平成7年に行われた「塩の道会議サミット」が、平成9年に相良で行われる事に向けての冊子だった。塩づくりの製法は吉良と同じ。戦争中には学徒動員迄され塩づくりをした。近くには相良、塩の道案内所の建物もあるが、もぬけの殻。静岡で一番の難点は、往復時間がかかり運転してくれる人の負担が大きい。中馬街道等の時と違い下見の時間が取れず、知識が消化不良のまま現地に出かける。

近場で色々考え、たまたま歴史紀行「名古屋の古道・街道」から名古屋市内でも私たちの知らなかった、塩の歴史の道がある事に気がついた。

どれもすべてこれから調査し、それからのスタートとなるが、どんなことがわかるか楽しみだ。

こまくさの会 秋山トレッキング

松本陽子

「こまくさの会」は、四季折々自然観察と季節に応じた山遊びを取入れたアウトドアライフを楽しむ会として平成25年4月に発足しました。山行は年に2回ほどですが、過去には山菜採り野外パーティー、花散策、紅葉トレッキング、自然観察会、スノーハイキングなどを実施しています。近年は世話人の事情により3年ほど休会していましたが、昨秋、復活山行として秋山トレッキング「カヤの平と鍋倉高原」を計画しました。

志賀高原の北に位置する「カヤの平」は樹齢300年を超えるブナの原生林があり、「日本一美しい森」とも呼ばれている高原です。ここには北ドブ湿原、南ドブ湿原という2つの湿原がありますが、今回は黄金色に輝くブナ林の紅葉楽しみながら、貴重な植物の宝庫でもある北ドブ湿原を周回、ナナカマドが真赤な実をたわわにつけて、ブナの紅葉と共に素晴らしかったです。



黒倉山山頂にて

二日目は鍋平高原、茶屋池から信越トレイルの関田峠を通り黒倉山へ、関田峠はちょうど長野と新潟の県境の最高地点にあり、遠く日本海を見渡すことができます。こちらの紅葉も素晴らしく、落葉の絨毯を踏みしめ、雪の重みでしなっているブナの木を跨いだり潜ったりと変形した木々を楽しみながらの快適トレッキング、自生のなめ茸を採取した人もあり、秋山を満喫した二日間でした。



委員会報告

【東海 Youth】

東海 Youth では11月18日(日)にロープワーク講習会をおこなった。5月に実施した支部ルームでの机上学習に続き、今回は御在所裏道で実技を学んだ。山田副支部長の指導のもと、参加者7名がトラバースの際の支点の取り方と通過時のカラビナの掛け替えや懸垂下降、ローダウンといった基礎的な練習を繰り返した。



トラバースの実践



ロープを使った講習

12月には猿投山で小パーティに分かれ地図読み訓練を開催予定である。メンバーのスキルアップのためにも、このような試みは続けていきたいと思っている。

間もなく冬山のシーズンに入る。無雪期以上に安全には留意して活動していきたい。

服部康弘

【青年部】

「山田利行さんを講師に実践講習会を開催」

東海支部青年部は、天候に恵まれ、11月



日向小屋にて

10日に御在所日向小屋にて総勢12名で確保講習会を実施した。

カナダ山岳協会認定ガイドの資格を持つ山田利行さんを講師に迎え、基本的な確保支点の構築、確保器や腰がらみでの確保方法の考え方、懸垂下降時の登り返し等の技術等、安全性を検証しながら入念にレクチャーして頂いた。



確保の支点について学ぶ

講習では常に最悪の事態を想定しながら行動しなければならないと、ガイドならではの体験談を交えながら教えて頂いた。今後は反復練習を積み、冬の訓練山行に活かしていきたい。

鎌倉源助

追 悼

盟友布目治二さんを悼む

西山秀夫

10月28日の朝、また一人静かに山友の布目治二さんが逝った。20年年長の88歳だった。30年以上の交誼を得た。認知症にもならず、最期まで私の顔が分かった。

10月11日の布目さんの「良く山へ行ったなあ」が最期のお別れの言葉になった。

10月29日はお通夜に参列させてもらった。東海銀行山岳部の同志であり上田クラブを取り仕切った菊田貞明さんも弔問にかけつけられてあいさつさせてもらった。

10月11日に用事があって法務局名東出張所へ行った際、何か引きつけられるように名東区の引山にある介護施設を訪問。本人に用事があったわけでもないのに。

息子さん曰く、「文字通り山(の縁)に引きつけられて行ったのですね」と。

それから17日後に息を引き取った。家族の話ではまた来てもらいたかったそう。多忙で行けなかった。

スマホで9月15日のNHKのゆる山へGO「三ツ瀬明神山」の録画を見せたが余り興が乗らなかったようだ。もうそんな気力も失せたのだろう。食べられなくなると体力がなくなり衰弱する。これがまあ摂理である。

布目さんとは実に多く山行を共にした。その結果平成7年の『ひと味違う名古屋からの山旅』(七賢出版)にまとまった。その中の写真に多数掲載されているが、故人はいつも笑顔の写真ばかりと編集者が笑っていた。根っからの山好きであった。

私は30歳代名東区松井町のアパートに住んでいた。故人も指呼の所に住んでいたから毎週木曜日の夜になると「おい今度はどこだ」「あの山・・・」という「俺も行く」でまとまった。朝3時とか4時出発でキ印然としたやり方だった。二人とも無名山を狂ったように登りまくったのである。

電話口を通じてそばの家族の誰かの非難の声が聞こえてきた。男の声で「おいまだ山登りなんかしているのか」と。息子さんだろうか。親の山狂いに呆れているのだろう。あれから三十余年、息子さんが弔辞を述べられた。



2004年11月 大台の山で

「父は山が好きだったんです」と。

布目さんは「俺は家族を(普通の夫や父親と思わせないように)諦めさせた」と言われた。最近の若いもんは妻に遠慮して山をやめてしまう奴がいる。おれは死ぬまで登るんだという矜持である。

彼の世では上田正先生(脳性マヒ治療の世界的権威、岡崎青い鳥学園の園長)と9年ぶりに上田クラブを再開されただろう。3月に逝った大坪重遠さんともやあやあと一杯やっているのかな。彼の世でも深谷泰さんとコンビを復活するか。

夢のような登山三昧の人生だった。

私と布目さんとは上田クラブの席上で知り合った。住所を知ると至近距離なので尚も近しいと感じた。

それにどぎつい名古屋弁が脱力感があって親しみやすい。すっかり意気投合して東海地方のまだ知られざる無名山を登った。

仕事は大銀行の行員だった。高収入でさぞやと思うが、クレーム処理部門で毎日クレームの電話を聴かされて胃に穴があいたという。医者が癌と間違えて全摘してしまい、食えなくなった。それからは減量のせいで返って山に強くなったらしい。中肉中背の体型がほっそりとしたクライマータイプに変身してしまった。

出世競争の厳しい銀行員の人生も長くは続かず、48歳で片道切符を切らされたという。聞くと名証二部上場の名門企業の幹部に納まった。東京の支店勤務時代にそこの御曹司との交わりがあり迎えられたらしい。それなら

運が良い方である。事実、東海銀行山岳部仲間からは羨ましがられていた。銀行員で定年退職して中小企業に再就職してもせいぜい3年でくびだという。

これを上田正先生は、新ハイキング誌のガイド紀行文の中で設楽町の「落目山」に結び付けた。上田氏曰く「僕の友人に大企業から零細企業に出向させられて落ち込んでいるのがある。ここから見える落目山を紹介してやりたい」と書いた。

上田先生は有名企業から小規模企業への出向を出世競争に敗れた落目の会社員人生と見たのだ。自分が落目の人生を歩んでいると書かれて、「俺らは出しにされた」と嬉しそうに言われた。

私も新ハイキング誌でその紀行を読んですぐ登りに行った。登って見ると実は落目は役人の目から落ちた隠し田に由来すると分かった。後年『設楽町誌』を読んで割に知られた事実と知った。年貢をごまかしたのだから今なら脱税である。水呑み百姓は極貧のイメージだが、実はそれはマルクスレーニン主義で植えつけられた知識であり、本当は飢え死にすることもなく豊かに暮らしていた。むしろずるいのである。

布目さんはマジになると核心を付いた中々いい言葉を残している。

越後の山に外れなし、と。あれは、新潟県糸魚川市と上越市の境にまたがる不動山1430mへ行った時だった。ブナの黄葉が素晴らしかった。山の池も素晴らしかった。ヤマブドウもあった。こんな知られざる良い山のストックを一杯持っていた人であった。

繰り返すが「俺は家族に普通の夫であり、父親であることを諦めさせた」といった。御子息は良い大学を出て立派な職業についての常識人である。奥さんも諦めるような言い方でしょうもない、と子供のように喜び勇んで山に行く夫を見守って来られたのだった。

一方で私にとっては良い遊び相手だった。否登山の技術、知識の百戦錬磨の盟友だった。学ぶこと大だった。人生に必要なことも布目さんの言葉にあった。「銀行員はなあ、付き合いなんだよ」と言われた。

かつて私の所属する東海白樺に日本銀行の日銀ガールが入会してきた。といってもおばさんだが、山に登って感激すると、何かと贈り物を届けてくれた。相手が喜ぶことをする心得。市中銀行ではないのに銀行員のマナーは変わらなかった。本当に言われた通りだった。

棺に納まった死に顔は穏やかな相だった。好きなだけ山に登り美味しい酒を堪能した。幸せな人生を全うされたのだ。

ご寄付をいただきました

昨年3月にご逝去された、故大坪重遠会員（会員番号9594）のご家族より当会に100万円のご寄付をいただきました。

当支部の活動の資金、特に若い会員の育成を目的に使いますことをご報告いたします。大坪さんの人となりについては、支部報No.154号に西山秀夫さんと加藤守彦さんが追悼文を寄稿されています。

お礼と共に、大坪重遠さんのご冥福を心よりお祈りいたします。



一昨年の亀の会山行にて（大坪さんの米寿を祝う会）

会 務 報 告

【2018年9月常務委員会】

日時：9月26日(水) 19時00分～21時00分
委員会報告

① 支部友委員会(金谷)：8月及び9月の山行について実施状況報告。8月7日の支部友ミーティングは地図読みを高松、今津氏の講師で、参加者55名で実施した。9月29日30日には朝明ミーティングを88名で実施予定。7月時点の入会は4名、会員数は114名になった。

② 会計(市川)：今年度分の会費の未納者は60名位いる。支部報に振込用紙同封して請求を行う旨報告。

③ 山行委員会(鈴木)：月例山行は、今年は雨も多く中止になった山行もあるが、概ね予定通り終了する事ができた。リーダー育成と山行の在り方については11月3・4日の安全登山講習会を案内している。又、リーダーのレベルアップを図るため、事例に学び、下の廊下などの実施にあたって、事故防止の為参加予定者の実力の確認を行っていく意向とのこと。山行の通知メールの配信状況の問題点につき説明と同時に、改善方法につき総務委員会と協議したい旨発言有。

④ 亀の会(加藤)：9月27・28日で予定している富士山・村山古道を歩く企画は、篠原豊さんを迎え実施予定-参加者12名。亀の会は発足して今年10年が過ぎ、第2ステージとして高野山の中心地、高野三山、大和三山の企画を行う予定で、11月12・13日に大和三山へ行く企画を立てた旨報告。亀の会が発足して10年経過した中で今後の山行企画について議論有との報告。

⑤ 猿投の森づくりの会(小川)：山桜フィールドの活用を模索する試みとして「山桜フィールドに自分の木を持とう」と題し、山桜フィールドに自分の木を植えるプロジェクト参加募集をする提案有一当提案は承認され、支部報第155号に募集チラシを同梱することとなった。

⑥ 東海ユース(服田)：配布された資料に基づき、会員動向並びに山行の実施状況及び計画につき報告。

⑦ 青年部(中子)：一時帰国予定の山田利行氏と御在所での技術山行を11月にする予定である旨報告。

⑧ 登山学校(榎)：中日登山教室の実施状況、登山学校の山行実施状況を報告。あわせて、備

品購入と備品管理につき報告有。また10月27日開催予定の森の音楽祭においては、猿投山山頂を目指したハイキングのプログラムに13名を派遣予定。

⑨ 自然保護委員会：委員長欠席の為、議事録のみ配布。

⑩ インドヒマラヤ出版委員会(星)：2019年も予定している「インド・ヒマラヤ」改定増補版、並びに英語版発刊にあたっては、「東海支部」の冠をつけたいので常務委員会の承認を求めたいとの要請。一全会一致で承認

⑪ ボランティア委員会(前田)：ひまわり山行、親と子の登山教室、SON愛知支援登山、タンポポ登山(身柄付補導委託登山)、秋のブラインド登山、視覚障がい者全国交流登山大会につき、状況報告。同時にSON愛知支援登山及び秋のブラインド登山に関しては、支援者が不足しているので不足分の参加募集を行っている旨報告。

⑫ 遭難対策委員会(山田)：

- ・登山届の提出状況-配布資料に基づき報告。
- ・今後の登山届の提出方法、登山行程リスクチェック表作成、登山計画書の流れなどにつき、配布資料に基づき説明。将来的には、リスクグレードに応じ山行計画書の審査機関を定め、安全登山を目指すこととする旨、発表有。

ついては、3ヶ月ほどの試用期間を設け、登山届提出にあたっては、件名欄に「入山年月日・委員会もしくは個人山行、支部名、目的山域」の他に、**リスクグレード**を加えてほしい。

リスクグレードについては記載された「登山行程リスクチェック表」に記入したリスク点数に基づきリスクグレード1、リスクグレード2、リスクグレード3を算出して欲しい。2月までの試用期間の結果を基に3月に整理整頓・必要な見直しを行い「登山行程リスクチェック表」の中身決定を経て、4月から全東海支部関連登山について、新しい規定の基づき登山計画書の提出を求めることとするとの説明有。山行実施の前の月までに委員会への提出を義務付ける予定とのこと。一承認。

⑬ 写真展実行委員会(山内)：撮影山行の計画につき説明。額縁については新たなパネルの提案を受けているが継続検討中である旨報告。2019年度カレンダー：10月27日の森の音楽祭で販売できるよう準備、印刷数は1000部を予定することとなった。

⑭ 技術向上委員会(片岡)：国立登山研修所による名古屋での安全登山サテライトセミナーが11月3・4日に受講料無料で開催されるので、希望者は各自申込をしてほしい旨案内。メルマガ東海支部だよりでも告知することとなった。申込締切は平成30年10月10日。

⑮ 総務委員会(毛利)：平成31年東海支部の新年会を1月19日(土)今池ガスビル8Fガス灯で行う。懇親会の費用は4500円。講師は花谷康弘さんです。森の音楽祭の事前整備は順調に進んでいる。今回は10月9日・20日にも整備作業を実施するので時間の調整の付く人は参加してほしいとの事。森の音楽祭の申し込み状況については240名ほどで300名ほどを見込んでいる。登山用具の収納場所としてルームから地下一階の倉庫に収納する事とした。については各委員会のリーダーに地下倉庫に行くための鍵を渡すので責任をもって管理してほしい旨要請あり。

⑯ 学生連盟：9月22・23日開催されたゴザフェスの報告-参加者25名。内容はクライミングの指導監督者を招いて、初日は一壁で登攀をし、2日目は前尾根・中尾根に行くチームと、トレッキングチームに分かれて山頂を目指し実施。高橋支部長から常務委員の参加が少ないので、今後は積極的に出席してほしい旨の依頼有。

⑰ インドヒマラヤ登山隊(星)：インドヒマラヤ未踏峰登山成功の報告と挨拶がなされた。出席：高橋、佐野、山田、片岡、尾上、市川、星、石田、前田、井上、毛利、小川、金谷、榊、中子、山内、鈴木、服田、天野、鎌倉、丹羽、一ノ瀬

【2018年10月常務委員会】

日時：10月24日(水)19時00分～20時50分
1. 高橋支部長挨拶：

①東海支部第4代の樋口啓二支部長が10月18日に逝去された旨報告。樋口さんは氷河学に詳しく名古屋科学館の館長も務められた。故人を偲んで黙祷。

②ナイロンザイル事件にかかわった篠田軍治氏の日本山岳会名誉会員取り消しを求めるパンフが当事者である故石岡繁雄氏の娘さんより届けられたが、東海支部としてはこの案件には関わらない事とする旨の報告がなされた。

③全国支部合同会議の報告

1) 東海支部は支部員の平均年齢が全国第1位で64歳であり(正確には63.37歳)、支部員数も353名で全国第1位、登山計画書の提出数

も第1位だった。活性化した支部で有り会員層も若い人から高齢者までバランスの取れた支部である評価を受けた旨報告。

2) 東海支部の登山学校の開設・運営上につき発表した。

3) 110周年の取組ーヒマラヤトレッキングの計画につき報告。

4) 全国支部懇談会ー本部から2021年度の支部懇開催を東海支部で引き受けてほしい旨要請があった。これについては東海支部の60周年記念行事の一環として取り組みたい旨提案があり、全会一致で承認された。

2. 事務局(毛利)：60周年記念行事を計画するに当たり、60周年記念事業委員会を立ち上げる必要があるが、先日の正副支部長会議にて、尾上昇氏に当委員会の委員長を引き受けて頂くよう依頼することを、常務委員会に提案することとなった。

3. 委員会報告

①支部友委員会(尾上)：10月の山行について実施状況報告。台風接近の為中止とした9月29・30日の朝明ミーティングを、改めて4月20・21日に開くことを登山学校委員会と相談の上決定した旨報告。また、2月19日の支部友ミーティング開催、及びリビエールでの12月11日支部友忘年会開催を報告。忘年会には常務委員の皆さんにも参加して欲しい旨要請有。

②山行委員会(鈴木)：実施状況の報告。鳳凰三山下山中に骨折者があったが適切な処置で対応した。技術向上委員会から案内された安全登山講習会には、山行委員会からは3名出席をする。新登山計画書の提出については資料に基づき議論を行い出来る処から始めていく事で決定した。

③猿投の森づくり委員会(小川)：配布された資料に基づき10月の事業・作業の実施状況を報告。11月10日には幼稚園児を対象にした森の探検隊のイベントを実施。又、森づくり会の会員が高齢になってきた為、森の音楽祭を今回の10回目を最後として取り止めとするか、規模を縮小しての開催で検討して欲しい旨要請あったが、尾上委員よりこれは猿投の森づくりの会の事業ではなく支部の事業であるので、猿投の森づくりの会に音楽祭開催の取り止め云々の発言をする権限はない旨指摘。但し、猿投の森づくりの会は、今後お手伝いできないという事であれば、支部として森の音楽祭を今後どう

するか検討することとなった。

④東海ユース(服田):配布された資料に基づき実施状況の報告がされた。新入会員は1名で、10月21日現在会員数は20名。(男性2名・女性18名)。共同装備などの収納場所変更は完了した旨報告があった。

⑤支部報編集委員会(星):次回は正月号となり年頭の挨拶は支部長に書いて戴く。山田氏の講演については登山学校委員会の榊氏に書いて戴く予定との事。来年度も各委員会の報告は出して戴きたい旨報告があった。

⑥青年部(鎌倉):10月初旬に台湾の山を5名で実施。11月10・11日、山田利行氏の講習会を日向小屋で予定している旨の報告がされた。

⑦東岳連(丹羽):10月18日定例会ではゴザフェスの反省会と学生総会の日取り内容の打合せを行った。今年度も冬山登山を計画、決起集会を10月26日に行う旨の報告がされた。合わせて学生の為に、使わなくなった登山装備の提供のお願いがなされた。

⑧登山学校(榊):配布された資料に基づき山行実施状況および第2期の各クラスの状況、机上講習会並びに山田利行氏の公開講座につき報告。今後の登山計画書提出時、リスクチェック表添付と同時にリスクグレードの記載をすることとした旨報告。

⑨自然保護委員会(井藤):モニタリング1000の事前講習会、担当者などにつき報告。提供されたカメラ3台の横に盗難防止の為、看板を設置し、カメラ撮影の目的などを表示することとした旨報告。カメラ撮影作業の協力者募集の依頼あり。

⑩ボランティア委員会(前田):前回提出の計画に沿って事業実施中であること、その結果を11月常務委員会で報告することのこと。また、10月6・7・8日高尾で開催された第16回視覚障がい者全国交流登山大会に東海支部からも参加。全国から視覚障がい者支援団体が14団体230名の参加があった。同時に日本山岳会本部と高尾の森づくりの会から30名の参加があり、メディアの取り上げもあった旨報告された。

⑪遭難対策委員会(山田):登山計画の届け出状況について報告。前回依頼した今後の登山計画書提出方法に問題点があれば指摘してほしい旨依頼したところ、①計画書の統一、②個人山行の計画書の一月前提出は難しい③現在のチェックリストではバリエーションルートに対応が出来ないなどの問題点の指摘があった。下

山報告は各委員長・任意に定めた者へ報告をする事とし支部長にはしなくて良いとする。遭難委員会はリスクグレード3についてのみ審査をする。また山行計画検討機関の設置を今後準備する旨の報告があり、11月の計画書からは全てリスク表を添付して委員会を通して出して欲しい旨依頼あり。

⑫写真展実行委員会(山内):配布された資料に基づき写真山行の実施状況並びに計画について報告がされた。

⑬森の音楽祭(箕浦):今週10月27日、土曜日実施。沢山の支部員の参加をお願いしたいとの事。毛利委員より参加申し込みは368名である旨報告と同時に、事前整備作業に沢山の支部員に参加協力していただいたことに謝意の表明あり。

⑭岳連(鎌倉):国立登山研修所による「安全登山サテライトセミナー」の講演会は定員が100名の処、300名近くになったため会場が名古屋工業大学4号館ホールから51号館5111室に変更になったむね報告有。また11月30日の愛知県山岳連盟による「第22回遭難を考える講演会」の開催案内。当講演会についてH.Pでも紹介する事となった。

⑮総務委員会(毛利):常務委員会の忘年会は全員が参加出来るよう常務委員会終了後、近くの場所で12月26日に行う事にした旨報告。

出席:高橋、山田、片岡、佐野、尾上、箕浦、小川、榊、鈴木、加藤(守)、市川、星、前田、服田、鎌倉、丹羽、井藤、井上、山内、毛利、総務委員会 毛利邦男 記

ル ー ム 日 誌

—・— 9月 —・—・—・—・—・—

- 1(土) 東海ユース 15時~18時
- 3(月) 支部友委員会
- 4(火) 県岳連
- 5(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 6(木) 写真展委員会
- 7(金) 古道塩の道/森の音楽祭
- 10(月) 登山学校運営委員会/支部報編集委員会
- 12(水) 東海ユース
- 13(木) 自然保護委員会
- 16(日) 東海ユース
- 18(火) ボランティア委員会/支部報編集委員会
- 19(水) 山行委員会/総務委員会・正副支部長会議

- 20(木) 東海学生連盟
- 21(金) 図書委員会、読図会
- 25(火) 猿投の森運営委員会
- 26(水) 常務委員会
- 27(木) 技術向上委員会
- 28(金) 支部報発送

10月

- 1(月) 支部友委員会
- 2(火) 登山学校
- 3(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 4(木) 写真展委員会
- 5(金) 古道塩の道/森の音楽祭
- 6(土) 登山学校(座学-鈴木) 9:30~12:00
- 8(月) 登山学校運営委員会
- 9(火) 県岳連
- 10(水) 東海ユース
- 11(木) 自然保護委員会/写真展委員会
- 15(月) 図書委員会、読図会
- 16(火) ボランティア委員会
- 17(水) 山行委員会/総務委員会・正副支部長会議
- 18(木) 東海学生連盟
- 21(日) 登山学校(座学-鈴木) 9:30~12:00
- 23(火) 猿投の森運営委員会
- 24(水) 常務委員会/支部報編集委員会
- 25(木) 技術向上委員会/東海学生連盟
- 26(金) 亀の会(14時~17時)/山行委員会
- 27(土) 登山学校机上講習

11月

- 1(木) 写真展委員会
- 2(金) 古道塩の道
- 4(日) 東海ユース 16:00~
- 5(月) 支部友委員会
- 6(火) 県岳連
- 7(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 8(木) 自然保護委員会
- 9(金) 森の音楽祭
- 10(土) 登山学校机上講習(栗木) 10:00~12:00
- 12(月) 山田利行講演会
- 13(火) 登山学校運営委員会
- 15(木) 東海学生連盟
- 16(金) 東海学生連盟総会
- 19(月) 図書委員会、読図会
- 20(火) ボランティア委員会
- 21(水) 山行委員会/総務委員会・正副支部長会議
- 22(木) 技術向上委員会/東学連
- 27(火) 猿投の森運営委員会
- 28(水) 常務委員会
- 29(木) 東海学生連盟

会員異動

入会：清水克広(16398) 増田敏夫(16406)
 退会：早戸健太郎(16110) 山本隆三(15078)
 森 あかり(16046)

デジタルメディア委員会からのお知らせ

デジタルメディア委員会では、昨年から支部ルームのネット環境の見直しを行ってきました。今までは、ネット接続の契約が古いまま、契約名義が古い名称(財団法人日本山岳会や一部はOMC)のまま、ネット接続が出来なくなるときがあるという状況になっていたので、①ネット接続をADSLから光に変更、②電話を光電話にしピンク電話を廃止、③契約名義を「公益社団法人日本山岳会(東海支部)」に統一、④各種契約を整理、などを行いました。

この見直しにより、支部の通信費を年間約7万円削減(試算値)することが出来ました。さらに、今回ネット接続を高速化したのに合わせて、ルーム内にWi-Fi環境を作りました。これにより、ルーム内でスマホやパソコンをネットに高速でWi-Fi接続出来るようになりましたので利用してください。Wi-Fiは、以下の設定値で接続できます。

【東海支部ルーム内フリーWi-Fi】

- 2.4GHz 名称 : jactokairoom2g
 パスワード : jactokai2g
- 5GHz 名称 : jactokairoom5g
 パスワード : jactokai5g



INFORMATION

【総務委員会からのお知らせ】

◆東海支部新年懇親会のご案内◆

日 時：平成31年1月19日(土) 受付16時30分～

講演及び新年懇親会17時00分～18時

場 所：今池ガスビル 8F ガス燈

名古屋市千種区今池1-8-8

TEL 052-732-2944

地下鉄東山線今池駅下車 10番出口から1分
内 容：

第1部 挨拶、講演、登頂報告 (17時～16時)

・支部長挨拶

・講演 テーマ『登山文化の継承と発展』

講師：花谷泰広氏

第13次インドヒマラヤ登山隊遠征報告

第2部 懇親会 (18時15分～20時15分)

・懇親会費 4500円

出欠の返事が未だの方は、至急ご連絡下さい。

メールでの連絡も可とします。アドレスは

:tki@jac.or.jpです。

新年会には、支部友、青年部、東海学生連盟、
東海ユース、登山学校の方々も参加できます。

総務委員長 毛利 邦男

【技術向上委員会からのお知らせ】

◆「登山で起こる低体温症と凍傷」の講演会

日 時：平成31年2月23日(土) 16時～18時

場 所：名古屋市立大学桜山(川澄)キャンパス
内さくら講堂

地下鉄桜通線桜山駅下車 3番出口からすぐ
会 費：無料

講 師：金田正樹氏

内 容：加藤保男、山野井夫婦をはじめ、800
例以上の凍傷患者を担当され、日本における凍
傷治療の第一人者。「感謝されない医者」とい
う本を出版されており、本当は凍傷切断手術が大
嫌いだという整形外科医のモノローグ。

2018年9月に東京新聞社から「図解山の救急
法」を出版されています。

◆「読図とナビゲーション」の講習会

日 時：2019年3月16日(土) 14:00～17:00

場 所：OMC 4F大講堂 無料

講 師：村越真氏 全日本オリエンテーション

選手権15連覇を含む通算22勝の前人未到記

録を持たれる大学教授(心理学者)。読図に

関する著書多数。静岡大学教育学部附属小学
校の校長も務められており、読図に関する技術、
知識だけでなく、指導方法も学びましょう。

*両プログラムとも筆記具持参。

*同封されてますパンフレットにて、開場時間、
場所、注意事項、詳細等再度ご確認の上おこし
ください。

技術向上委員長 片岡泰彦

★支部備品の使用について(お願い)

最近支部ルームに置いてある山岳会の備品
(登山学校、山行委員会等管理)を無断借用す
るケースが時々見うけられます。借用する場
合は、「備品貸出予約表」が置いてありますので、
必ずそれに記帳し、レンタル代金を支払って借
りてください。また、テント、ロープ、アイゼ
ン等使用した後はきれいに清掃をして返して
ください。

【写真展実行委員会からのお知らせ】

写真撮影山行を下記の通り企画しています。
是非参加をご検討ください。

1. 1月15日(火)～16日(水) 1泊2日
野沢の火祭り 野沢温泉泊 マイカー利用
世話人 蟹井れい子
2. 2月4日(月)～5日(火) 1泊2日
美ヶ原高原 美ヶ原高原H泊 松本駅集合
世話人 坂本孝
3. 3月19日(火)～20日(水)
千畳敷 世話人 坂本孝
午後3時ロープウェイホテル集合
名鉄バスで、ロープウェイ込みの切符あります
4. 4月26日(金) 御在所 日帰り
アゼリア10時集合 世話人 中野八千代
5. 5月7日(火)～8日(水) 1泊2日
西穂高(独標) 西穂山荘泊
星が丘集合 自動車利用 世話人 井上寛之
*参加ご希望の方は、山内委員長までメール
yamauchi@orihime.ne.jp でお知らせください。
写真展実行委員長 山内 薫

編集後記

あけましておめでとうございます。今年も皆
様の活発な活動を期待しています。

星 一男

